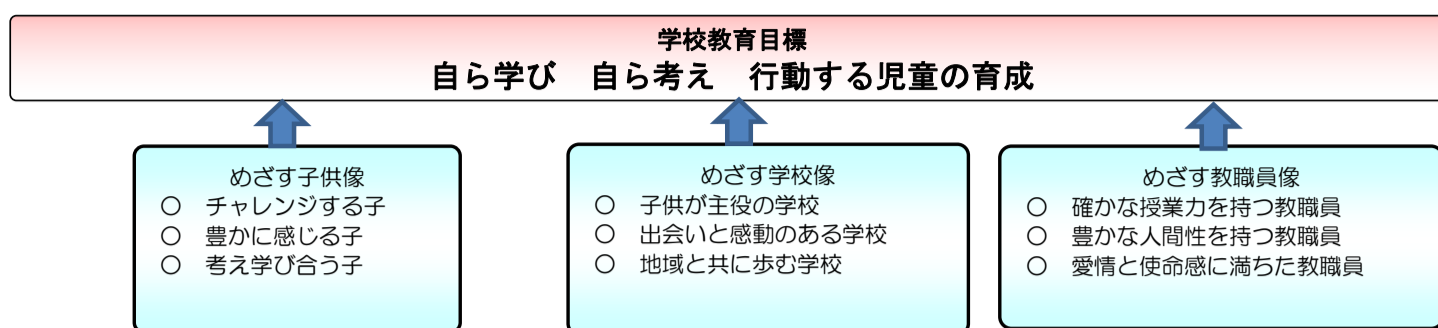


# 平成31年度 学校評価自己評価表



中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための計画	評価指標(評価方法)	担当	目標値
確かな学力	○基礎基本の学力の向上を図る	○つけたい力を明確にした授業づくり ○基礎的な力の定着を図る取組の推進 ・ドリルタイムの内容の焦点化 ・授業、補充学習、家庭学習のリンクを図る。	○通常学級が示している評価指標を達成する学級数の割合  ○標準学力調査の基礎基本を問う問題において、国または県の算数・国語・理科の平均値を超える児童の割合	教務部	半数以上  70%
	○活用力や自ら学ぶ意欲の向上を図る	○算数科・理科・総合的な学習の時間を中心に課題発見・解決学習を行う。 ○自分の考えをもつとともに、それを相手に伝え、相手の考えと比較したり統合したりする思考の方法を指導する。	○標準学力調査の活用力を問う問題において、国または県の算数・国語・理科の平均値を超える児童の割合 ○学び方アンケートにおいて、5つの学び方について、②の思考力に肯定的な評価をした児童の割合 ○教師アンケートにおいて、思考力を高める指導に関する項目で、肯定的な評価をした指導者の割合		60% 80% 80%
豊かな心	○自己指導能力の育成を図る	○「あいさつ、返事、黙動」を生徒指導のスタンダードと位置付け、その中でもあいさつに重点を置いて取り組む。	○朝のあいさつ運動の際、児童会がレベル3のあいさつ（大きな声で、自分から）ができる児童の割合	生徒指導部	90%
	○自分や人を大切に作る心と実践力を育成する	○児童会を中心とした児童の主体的な活動を進める。 ・年間を通じたいじめを許さない取組 ・学校行事への主体的な参加 ○学級活動での折り合いをつける話し合い活動を充実させる。	○児童アンケートにおいて「いじめをなくすための行動をしている」の項目の肯定的評価の割合 ○i-checkの自己肯定感の高い(特に望ましい)児童の割合	生徒指導部	70% 70%
健やかな体	○体力の向上を図る	○体育の授業の充実。体カテストにおいて課題があった項目については、体育の授業において継続した取組を行う。 ○体カアップ月間の取組の実施。 ○休業中の体カづくりの推進。 ○再体カテストの実施。	○「握力」では、県平均以上の児童の割合  ○「50m走」のタイム(4月の記録と対比)一人あたり0.1秒ずつ記録を伸ばす児童の割合	保健体育指導部	60% 70%
	○基本的な生活習慣の確立を図る	○月1回、ノーマディアディを設定し、自律的な生活習慣を身に付ける。 ○目標の設定方法を統一し、達成度が分かりやすいようにする。 ○アンケートによる実態把握。 ○学級指導等を通して、自律的な生活習慣の重要性を理解させる。	○月1回の取組の結果、守れた児童の割合  ○目標がレベルアップできた児童の割合	保健体育指導部	60% 60%
信頼される学校	○保護者・地域とのつながりを深め、信頼を築く地域貢献を実践する	○月初めに学校だよりを発行する、2週間に1回はHPを更新することにより、保護者・地域住民へ、加計小学校教育を発信する。 ○教科等の年間計画に地域素材の活用を位置付け、地域の活性化につながる学習活動を仕組む。	○保護者アンケートにおいて、「信頼される学校」に関する項目の肯定的評価の割合  ○各学年地域に関連した教育活動実施回数	総務部	95% 年3回以上
	○業務改善による不祥事防止と人材育成を図る	○タイムレコーダーによる勤務時間管理と業務の調整。  ○日課表や各部の業務内容の見直し等を行い、子どもと向き合う時間の確保を行う。	○子どもと向き合う時間が確保されていると感じる教職員の割合  ○時間外勤務月80時間を超える教職員の人数  ○日々の業務の中で充実感が得られている教職員の割合	総務部	80% 0人 80%

評価基準	A	達成率が90%以上
	B	達成率が80%以上90%未満
	C	達成率が60%以上80%未満
	D	達成率が60%未満